

高信頼性ICタグ

書き込み型メモリはID管理が大変

少し前の時代では、RFID(すなわちICタグやICカード)では、書き込み型メモリを内蔵できるので、その特長がバーコードとの優位性を示しているとの認識があったように思います。

この考えでシステムを組むと、一見分散処理がスムーズにできるように考えられるかもしれませんが、ところが、大きな落とし穴がありました。

この落とし穴はいくつもあるのですが、まず、ID管理と書き込みの手間です。どんどんいろいろなところで勝手にIDを書き込んで発行するものですから重複管理どころではありません。

また、書き込みの工数もばかになりませんし、専用の装置も必要です。これは意外と見逃されています。

書き込み型メモリを使いこなすのは、そのスタート点から大きなリスクをもつことに皆様のご賢察をお願いしたいところでございます。